

2022 年度国際ユース作文コンテスト

【子どもの部】 文部科学大臣賞（最優秀賞）

ありのままの自分

（原文）

佐藤 和花（12 歳）

東京都

東京都立大泉高等学校附属中学校

私は、他の人と好きなものや苦手なものが違うことが多いので、よく人に「変わっている」と言われます。

昔、私の好きなものが否定されたことがあります。そして「変わっているね」と言われ、周りとは違うのだと気づき、とても傷つきました。その時からまた同じようなことを言われるのが怖くなり、ありのままの自分を伝えることが少なくなりました。

その後、仲の良い友達と休み時間に話していました。最初、テレビや音楽などの楽しい話をしていましたが、チャイムが鳴ると「最悪」とみんなが言い始めました。私は理由がわからず戸惑っていると、目に入ってきたのは時間割です。次の時間の教科を確認すると、そこには「算数」と書かれていました。みんな算数を嫌がっていたのかと考えながら支度をしていると、一番仲の良い友達が私のところに来て「算数嫌だね」と同意を求めてきました。そのとき私は言葉に詰まりました。算数がものすごく好きだからです。しかし、仲の良い友達はみんな算数が嫌だと言っているため、「そうだね」と答えました。

別の日、同じ友達と音楽の話をしていると、友達はゆったりしていて落ち着く流行りの曲が好きだと言いました。正直なところ、私は速い曲の方が好きだったので、その曲が好きではありませんでした。しかし、友達が「神曲」「好きじゃない人なんていない」と言っていたため、私も仕方なく好きだと伝えました。

この前までは、このように友達と合わせていれば程よく良い関係を保てるため嘘をつくことが多く、それを良い嘘だと思っていました。周りからも話が合う相手として話しかけられていて、自分では満足しているつもりでした。

しかし、毎日そうして過ごしているうちに、本当のことが言えないということが辛く感じるようになりました。そして、他の人は好きなものは好き、苦手なものは苦手とはっきり伝えているのに、自分だけ伝えられていないということに疑問が生まれました。本当に伝えてなくていいのか。ずっと本当の自分を知ってもらえないままでいいのか。そのようなことを考えるうちに、次からははっきりと伝



えることにすると決断しました。

次の日、また算数があり、友達は変わらず嫌だと言っていましたが、「私は算数好きだから楽しみ」と伝えました。最初、友達には驚かれ、「算数が好きな人なんて見たことない」と言われました。少し傷つきはしましたが、それ以上に伝えることのできた喜びが大きかったので、あまり気にしませんでした。

その後も本当に好きなものを伝えるうちに、「変わっているね」と昔と同じことを言われました。しかし、私は不思議なことに全く傷つかず、むしろ嬉しく感じました。そして、「変わっている」ということを誇れるようにまでなりました。すると、自然と周りにも認められていくようになりました。

今、考えてみるとそれは、自分でありのままの自分を受け入れることができ、よってそれが他の人にも伝わったのだと思います。

「自分に嘘をつかずに自分を受け入れ、他の人にも受け入れてもらう」。これが今の私の価値観です。

価値観は人それぞれですが、私はこのことが何よりも大切に、自分が幸せに生きていくために欠かせないことだと考えています。周りを怖がらず、自分の意志で行動することで、いつか周りにも認めてもらえるようになると思います。そのため、これからも私の価値観を大切に生きていきたいです。